



おやこ つく  
父子で作ろう！



え と す る が だ こ  
干支の駿河凧 (全1回)

2014年の干支(午)の絵付けと  
竹ひご貼りを体験し、静岡の  
伝統工芸品・駿河凧を作ります。  
※糸目付けの体験もできます(希望者)



日 時：平成26年2月1日(土)  
午前9時30分～<sup>しょうご</sup>正午

かい じょう  
会 場：アイセル21 3階 アトリエ

かい ひ  
会 費：一組1,000円

たい しょう しょうがくせいじょう こ だんせいほごしゃ  
対 象：小学生以上の子と男性保護者12組(2人一組)

こう し ごとう ひかる ごだいめ たこはち  
講 師：後藤 光氏(五代目 凧八)

ふくしま ゆきえ するがだこしよくにん  
福嶋 幸江氏(駿河凧職人)

もうしこみほうほう ごぜん  
申込方法：1月11日(土)午前10時～

でんわ あおいしょうがいがくしゅう もうしこみじゅん  
電話で葵生涯学習センターへどうぞ(申込順)

【申込・問合せ先】

静岡市葵生涯学習センター(アイセル21)指定管理者(公財)静岡市文化振興財団

〒420-0865 静岡市葵区東草深町3-18

TEL 054-246-6191

静岡市生涯学習センターHP <http://sgc.shizuokacity.jp/>

こう しょう かい  
講 師 紹 介

ごとう ひかる するがだこえし  
後藤 光氏【駿河凧絵師】

さんだいめたこはち たつさぶろう ひまご ごだ いめたこはち  
三代目凧八・辰三郎の曾孫。五代目凧八として  
ようしょうき がくぎょう かたわ するがだこ たずさ  
幼少期から学業の傍ら、駿河凧に携わってき  
た。2004年から『五代目凧八』として本格始動。



ごとう ひかる  
後藤 光氏



するがだこ  
駿河凧

ふくしま ゆきえ  
福 嶋 幸江氏

するがだこ たけ せいさく ほか しょくにんしごとぜんぼん たずさ  
駿河凧の竹ひご製作から、その他、職人仕事全般に携わ  
る。三代目凧八・辰三郎の妻が裏方として支えていた竹ひ  
ご製作を受け継いだ。40年近く凧八の職人を務める。

するがだこ  
駿河凧とは・・・

しずおかけんちゅうぶ きょうどがんとく せんごくじだい いまがわよしもところ せいれき  
静岡県中部の郷土玩具。戦国時代に今川義元公(西暦  
1519年～1560年)の家臣が、戦勝祝いに揚げた  
のが始まりといわれる。形は角凧と比べて、下部の  
左右がエラの張ったように出っ張っているのが  
特徴。基本的には縦3本の糸目で揚げ、左右に揺れ  
ながら揚がる様子を糸を繰って楽しむ。



ごだ いめ ごとう さぎょうふうけい  
五代目・後藤氏の作業風景

たこはち  
凧八とは・・・

しずおかしあおいく するがだこせんもんてん しょだい はちそう めいじ はい しそくはいぎょう のち するがだこ  
静岡市葵区にある駿河凧専門店。初代は八蔵。明治に入り士族廃業の後、駿河凧  
作りを生業とする。二代目・徳次郎は、現在の駿河凧の元祖・賤機藤吉に師事。  
今に伝わる鮮やかな凧八の駿河凧を確立した。三代目・辰三郎は16歳頃から戦前  
戦後と描き続けた職人。昭和40年代に「庶民の芸術」として広く世間に認めら  
れた。辰三郎の急逝後を継いだ四代目・阿さ子を経て、五代目・後藤光へと受  
け継がれる。

こんかいつく たこはち え とだこ  
今回作る凧八の干支凧

さんだいめたこはち たつさぶろう のこ えま すあん  
三代目凧八・辰三郎が遺した絵馬の図案を、  
2006年に五代目が凧へと起用。凧八のオリ  
ジナル干支凧として人気だ。

